



発病した種イモと苗基部の黒変 葉巻、しおれ症状 葉の変色 茎地際の黒褐変

図2 育苗ほ場におけるサツマイモ基腐病の症状

5. ほ場準備における防除対策ポイント

前年度多発したほ場は、輪作や休作を行いほ場の菌密度を低下させることが重要！

①収穫後の発病土壌残さの処理

前作で発病したほ場では、残さが伝染源となるため、複数回耕耘を行い作物残渣が残らないようにしましょう。

②排水対策

本病は、水が停滞しやすい場所での発病が多いため、排水性の向上・確保が重要。

③土壌消毒

前年度発病したほ場は、地温15℃以上の時期に殺菌効果のある土壌消毒剤で消毒しましょう。なお、土壌消毒するほ場は発病残さが残っていると十分な効果が期待できないので、事前に残さが残らないように複数回耕耘しましょう。

6. ほ場における防除対策のポイント

発病株から周囲の株へ感染が広がらないようにすることが大切！

・苗伝染や土壌伝染により発病した株から、周囲の株に接触伝染や胞子で伝染します。発病株は枯死部に大量の胞子を形成し、降雨等によって漏出した胞子によってほ場全体に発病が蔓延します。

①生育初期の発病株除去

茎葉が通路を覆うまでに、発病株を除去することが大切！(図3)



葉の変色としおれ

枯死前の株

発病株の地際の黒褐変

健全株に埋まった発病株

図3 本ほの生育初期における発病株の状況

②薬剤による防除

発病株を除去してから薬剤散布することが大切！

初期の発病株から急激に感染が広がり多発生に至ります。発病が急激に広がることを防ぐため、発病株を除去した後に、薬剤を複数回散布すると効果的な防除ができます。※防除薬剤は、Zボルドーとジーファイン水和剤が利用可能ですが、両剤とも発病した株への効果がないため、発生初期からの防除を心がけましょう。

